

題 材 名	わたしたちの生活と住まい		
内容・項目	C－（２）アイ （関連 C－（３）イ ）		
指導時間	7 時間		
題材のねらい (題材の特徴)	<p>本題材は、住居の機能と住まい方に関する学習を通して、自分や家族の住空間に関心を持ち、住居の基本的な機能や安全に配慮した室内環境の整え方をするとともに、安全で快適な住まい方を考え、具体的に工夫できるようにすることをねらいとしている。</p> <p>「室内の安全」「室内の空気調節」「音と生活」の視点から、室内環境の整え方が分かり、生活の中で実践できるよう、問題解決的な学習を行う。各班の課題を解決するにあたっては、調査や観察・実験などの体験活動を通し、具体的な工夫が考えられるようにする。また、各班の結果や考えを発表し合い、学び合う場を設定する。それらの活動を通して、安全で快適な住まい方が分かり、自分の住まいの課題を解決しようとする意欲と態度を育てたい。</p>		
学習の流れ (展開の工夫)	時 間	指導項目	主な指導内容
	2 時間	<ul style="list-style-type: none"> 家族の住空間について考え、住居の基本的な機能について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な例をもとに、住居のもつ基本的な役割が分かるようにする。 住宅に関する鳥瞰図やサザエさんの住居の例を活用して、住空間と生活行為とのかかわりに関心をもたせ、よりよい住まい方を追究しようとする意欲をもたせる。 <p style="text-align: center;">【学ぶエネルギー】</p>
	4 時間	<ul style="list-style-type: none"> 家族の安全を考えた室内環境の整え方を知り、快適な住まい方を工夫できる。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートや VTR、写真、住居に関する本などの資料を提示し、安心して住まうための課題に気付かせる。 調査や実験などの学習活動を通して、具体的な工夫に気付かせ、実践できるようにする。 「室内の安全」「室内の空気調節」「音と生活」の視点から課題を設定し、計画を立てて調査や実験をし、課題を解決させる。 <p style="text-align: center;">【意思決定能力】【かかわり】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各班毎に分かった知識を共有させるために、発表し合う場を設ける。全員が、何らかの方法で発表にかかわるよう助言し、主体的な活動を促す。【学ぶエネルギー】 実演や図表を用いた説明など様々な方法で発表させたり、質疑応答させたりすることにより、言語活動の充実を図る。【かかわり】
	1 時間	<ul style="list-style-type: none"> 住まいに関心を持ち、課題をもって住生活について工夫し、計画を立てて実践できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習したことをもとに、よりよく住まうための工夫を考え、家庭で実践したことの発表会を行う。 指導時間の1時間は、発表会の時間。計画、実践は、家庭で行う。 自分の住まいを見直し、課題を見つけて、改善のための計画を立てさせる。 <p style="text-align: center;">【意思決定能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 発表会で友だちの実践を知り、その工夫を参考にするなどして、これからも安全で快適な住まい方の工夫をしていこうとする意欲をもたせる。【学ぶエネルギー】【かかわり】

題材の紹介
と作品例

- 各班の課題は、次の6つであった。
- ①家庭の中で、どんな事故が起こるのか
 - ②足が不自由な人の室内の事故を防ぐ工夫(安全に生活するための工夫)
 - ③視覚に障害がある人の室内の事故を防ぐ工夫(安全に生活するための工夫)
 - ④室内の空気調節と効率のよい換気の方法について調べる
 - ⑤音は種類によって感じ方が違うのだろうか
 - ⑥騒音を防ぐ工夫

①は、アンケートを実施し、家庭内での事故の実態を調査した。その対策を資料で調べたり、考えたりした。

②, ③は、高齢者疑似体験セットを使った。階段やトイレ, 調理室等で動いてみたり, 段ボールを浴槽に見立てて入浴の不便さを体験したりした。

④は、化学物質, 一酸化炭素, カビやダニなどによる健康への影響について, 資料等で調べた。また, 段ボールで室内の模型を作り, 線香の煙の流れにより効率的な換気の実験をした。(1図, 2図)

⑤は、騒音計を使い, 同じ大きさの音でも, 音楽と金属をたたく音では, 感じ方が違うことを実験した。CDラジカセを部屋のいろいろなところに置き, 聞こえ方の比較もした。

⑥は、段ボールの模型を使い, 窓やカーテンの開閉によって外に出る音がどう変わるか実験した。(3図) 階下への音の影響は, 机を木槌でたたいて, 下へ響く音の大きさを測定した。机の上に木の板, 絨毯, 畳等を置いて比較した。(4図)

授業終了後, 住生活に対する関心を高め, 知識の定着を図るために, 発表に用いた資料を掲示した。(5図)



1 図



2 図



3 図



4 図



5 図

準備・材料等

- ・高齢者疑似体験セット
- ・騒音計
- ・自作実験用模型等一式 (空気の流れ実験, 騒音の実験)

[本題材を考案するに当たって参考にしたもの]

- ・技術・家庭題材集 家庭分野 開隆堂 2000
- ・バリアフリーの家 パッチワーク通信社
- ・バリアフリーの家 永岡書店
- ・新感覚のからだによい健康・安全住宅 講談社
- ・親子の住まい方教室 <http://www.sumai-info.jp/oyako>
- ・VTR「いい家」がほしい 松井修三監修

